



中四国 いんぷおめへしよん

企画・発行 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 学術情報課 Tel 082-241-1619
協力 中四国ブロック内各赤十字血液センター

2024年7月
第57号



日本人のABO血液型

輸血を行うときには患者さんと血液製剤の血液型を適合させることが重要ですが、日本人のABO血液型の頻度をご存じでしょうか？一般に日本人ではA型、O型、B型、AB型の順に多くて、4:3:2:1と言われています。もう少し正確に言うと、それぞれ37.5%、31.4%、21.9%、9.2%という頻度です。

血液型が世界中で同じ頻度と考えている方もおられると思いますが、実は地域によってかなり個性があります。例えば、英国におけるA型、O型、B型、AB型の頻度は44.0%、42.0%、10.0%、4.0%であり、フランスでもそれぞれ42.0%、44.0%、10.0%、4.0%と、O型とA型だけで90%近くを占めます。一方、B型の頻度が高いのがインドで、B型が32.2%もいます（A型：22.9%、O型：37.1%、AB型：7.7%）。

コロンブスがアメリカ大陸を見つける以前はO型が世界的に多かったという報告もあります。実際、ペルーの原住民を調べたところ、O型が100

%だったそうです。もし人類の祖先が全てO型だったとしたらどのようにA型やB型の人が生じたか、非常に興味深いです。ちなみにAB型は一番新しい血液型であることがわかっていて、昔のお墓に埋葬された人の血液型を調べると、古いお墓からはAB型の人骨が見つからないそうです。

日本人は血液型性格判断を好みますが、このABO血液型と性格判断を結び付けているのは日本と韓国、台湾など一部地域に限定されるようです。O型だけだったり、O型とA型だけで大半を占めるような国では、血液型性格判断が世の中に広まるとは思えませんね。参考に韓国のA型、O型、B型、AB型の頻度は34.5%、26.9%、24.1%、14.5%と、血液型の分布が比較的均等であり、分類して性格判断するのに適しているのかもしれません。

近年、社会問題として取り上げられるようになった事例として、血液型によって人の性格を判断し、相手を不快や不安な状態にさせる言動は、ブラッドタイプ・ハラスメント（通称：ブラハラ）と呼ばれます。パワーハラスメントやセクシャルハラスメントほど有名ではありませんが、現在では「不適切にもほどがある」行為であり、十分に注意する必要があります。

（中四国ブロック血液センター 所長 芦田 隆司）

中四国ブロックと全国の献血・供給状況

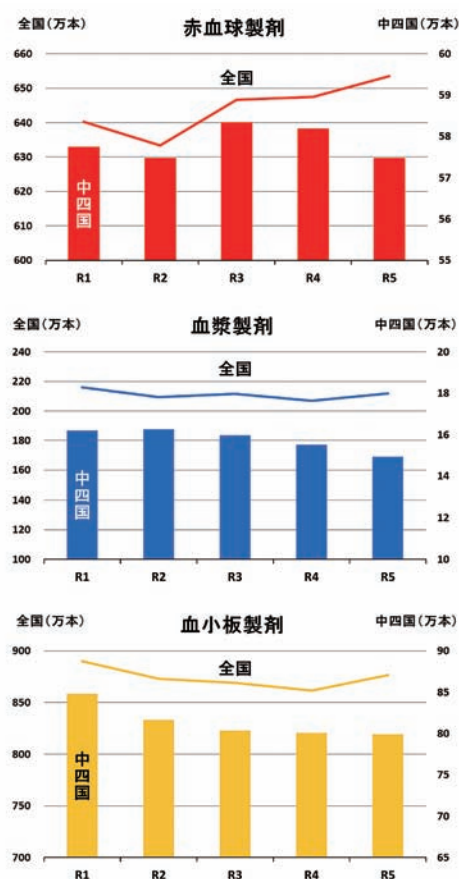
令和5年の中四国ブロック内における輸血用血液製剤の供給量を令和4年と比較しますと、赤血球製剤が-7,054本、血漿製剤が-5,757本、血小板製剤が-1,623本と、全ての製剤で減少傾向にありました(図1)。

献血者数もまた減少傾向にあります(図2~4)。令和4年の献血者数が438,786人、令和5年が436,042人となっております。現在の献血を支えてくださっているのは40~60代の方々ですが、60代の中には献血卒業年齢に達する方が増えてきていることから、将来的な献血者確保のためには、若年層へのアプローチが重要だと考えております。

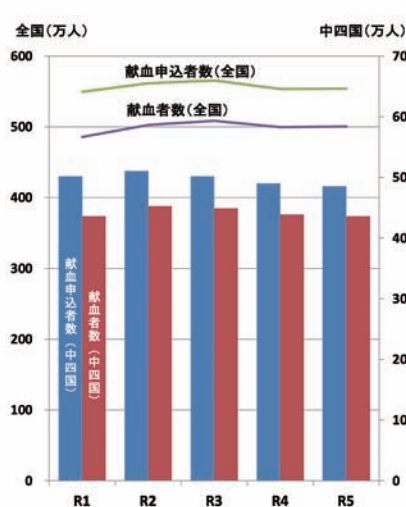
供給量に見合った採血を推し進める中で、令和6年においては10~30代の若年層献血者率を向上させるべく、学域等への採血バスの配車や若年層をターゲットとしたキャンペーンの実施を積極的に行ってまいります。

併せて、高校生や大学生だけでなく、小中学生への献血キャンペーン等を通じて、将来の献血者となりうる層に献血について学び、考えてもらう機会を引き続き設けてまいります。

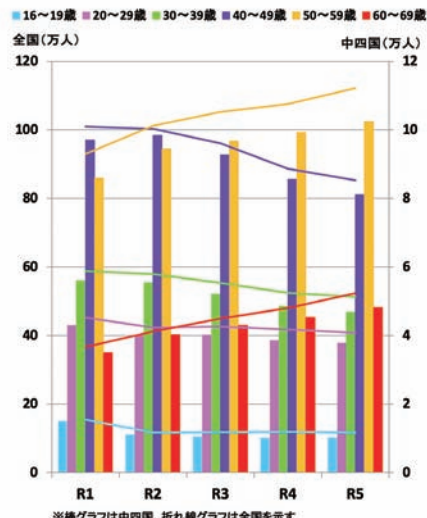
血液事業は、日々献血にご協力していただいている皆様により成り立っております。今後の輸血用血液製剤の安定供給のためにも、引き続き献血へのご協力と周囲の方々への呼びかけをよろしくお願いいたします。



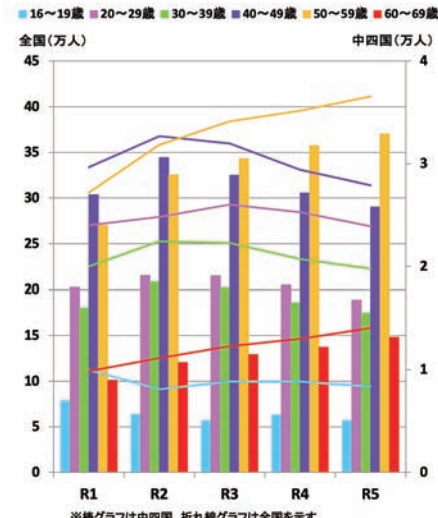
【図1】血液製剤の供給本数(単位換算本数)



【図2】献血状況



【図3】年代別献血者数(男性)



【図4】年代別献血者数(女性)